

金銭の使い道に関する価値観のインタビュー分析

A14CB053・A14CB097・A15CB001・A15CB038・A15CB058・
A16CD831

問題・目的

人が幸せと感じることは様々であり、この「幸せとは何か」の答えにはその人の価値観が表れていると考えられる。人の価値観はお金を使用する際に顕著に表れると仮定し、お金を何に一番使うかを検討することによってその人の価値観をしらべ、その価値観からその人が何に幸せを感じるかについて考察していく。

よって、本研究では、その人のお金の使い道やその使う理由を聞き、価値観、ひいてはその人が何に幸せを感じるかを調査することを目的とする。

方法

対象者：ケースⅢ（安立）の受講者12名（A～Lさんと仮名した）

実施場所：椋山女学園大学日進キャンパス2号棟2-111教室

実施日時：2017年10月11日13:50～14:10頃、2017年10月18日13:45～14:00頃

面接法：半構造化面接で行った。あらかじめ決められた質問項目は以下の4つである。

1. お金を一番何に使うか
2. なぜそのことにお金を使うのか
3. そのことにお金を支払う時の感情
4. 払ったお金に対して見合った満足感が持てているか。持てていない場合はどうするか

分析方法：各質問項目に対し分節化し、KJ法を用いてカテゴリー化した。その際に、各質問の答えを小さな紙に印刷し、ラベルとして質問ごとにカテゴリー分け、模造紙に貼り付けた。分類は実験者6名の合議により行った。

結果

1. お金を一番何に使うか

表1よりお金の使い道は「食」に関することが多い結果となった。「食」の中でも、小カテゴリーとして「生活」「人と食べる」の2つに分けられ、特に「人と食べる」という回答が最も多かった。次に、「服」の回答が多くみられた。他には、「部活」「ライブ・アイドル」「旅行」などの回答が挙げられた。

2. なぜそのことにお金を使うのか

次に、表2よりお金の使用目的は、大きく6つのカテゴリーに分けることができた。その中でも特に「生活のため」「幸せのため」「友達といて楽しいから」の3つの目的が多いことが判明した。他には

「人と話して価値観を増やすため」「自信をつけるため」「ストレス発散のため」が挙げられた。

3. お金を使用する際の気持ち

次に、表3よりお金を使用する際の気持ちは、大きく+と-、±の3つに分けることができ、多くは+の感情であった。+の感情の中でも、小カテゴリーとして、「感情」「理由」「ポジティブな理由」の3つにまとめられた。-の感情では、「不満」「残念」「後悔」の3つの小カテゴリーに分けることができた。さらに、±の中では、-寄りの考え方があった。また、お金がないときの対処法として「代替」「我慢」「借りる」の3つにまとめることができた。

4. 払ったお金に対して見合った満足感が持っているか。持っていない場合はどうするか

この質問に対して、満足している人と満足していない人の割合は半分ずつという結果になった。表4より満足している人は、「感情に対して満足」「物質に対して満足」という小カテゴリーに分けられた。満足していない人の対処法として、「無かったことにする」「根本的対処」「代替」「認知を変えている」が挙げられた。その他、「お金を使っているときの状況」というカテゴリーも作られた。

考察

1. お金を一番何に使うか

結果より、お金を一番「食」に使うことが判明した。これは、人間の基本的欲求として食欲があるためだと考えられる。また、「人と食べること」が最も多くなったことより、基本的な欲求とプラスして、食事の時間を人と共有し、楽しむ傾向があることが考えられる。したがって、食べるという欲求を満たす行為だけでなく、それを人と共有することによって更なる幸福感を得ていることが判明した。

次に、「服」に使う人が多いことから、女子大生は見た目を意識して、お金を使っている人がいることが示唆された。

他には、「部活」「ライブ・アイドル」「旅行」などに使う人がいることがわかり、自分の活力のためにお金を使っていると考えられる。

よって、全体的に、「食」の中の「生活」を除いて、自分の楽しみに対してお金を使う人がほとんどである。

2. なぜそのことにお金を使うのか

次に、お金を使う理由は、大きく6つのカテゴリーに分けることができた。また、「生活のため」という日常生活を営む上で必要な理由を除き、人と時間を共有するためである「人と話して価値観を増やす」「友達といて楽しいから」と、自分のためである「ストレス発散のため」「自信をつけるため」「幸せのため」という2つに分けることができた。前者は、他者と関わりを持つことで自らを満たすため、

後者は自己をコントロールしたり、幸せを感じたりするためといえる。以上のことから、お金の使用目的はその人の価値観、ひいては何に幸せを感じるかを表していることが示された。

3. そのことにお金を支払う時の感情

－の感情を持つ人は、「服」「本」「化粧品」などのモノに対してお金を使う人が多いことが判明した。以上のことから、「形あるもの」は明確な理想を持っているため、後悔したり失敗したりすることが多いと考えられる。

反対に、＋の感情を持つ人は、「旅行」「ライブ」など、「形のないもの」に対してお金を使っている人が多い傾向にあった。「形のないもの」には後悔や失敗をする可能性が低いと推測される。

恐らく、「形あるもの」は変わらず手元に残り、支払った時の感情がそのまま残りやすいが、「形のないもの」は記憶の中にあるため、認知的に操作可能であり、－の感情を持って後から＋の感情に変えることができる。たとえば、ライブでアーティストがよく見えない席になるという－の状態にあったとしても、同じ空間を共有できたという認知をすることで＋の感情を持つことができる。

4. 払ったお金に対して見合った満足感が持っているか。持っていない場合はどうするか

支払ったお金に見合った満足感を得られなかった場合の理由として、物質・感情・金銭の喪失が挙げられた。そして、それらの根源

はすべて感情にあると考えられる。また、満足感を得られなかった場合の対処としては、「無かったことにする」「根本的対処」「代替」「認知を変えている」が挙げられた。それらは、満足を得られないというストレスへの対応であり、「無かったことにする」は抑圧的対応といえる。また、「根本的対処」は、問題焦点型コーピングといえ、「代替」及び「認知を変えている」は情動焦点型コーピングといえる。

総括・今後の展望

本研究により、調査対象者は自分の活力になるものや楽しみに対してお金を払っていることが判明した。それは最初に仮定した通りその人の価値観によって異なっており、「何にお金を使用するか」は「何において幸せを感じるか」を表しているといえるだろう。

今回の調査では女子大生を対象として行った。調査対象を広げ老若男女問わず面接を行った場合でも、同様の結果が表れるのかが今後の課題である。また今回、「形のないもの」に対して＋の感情を持つ回答の割合が多い結果となった。これは「形のないもの」が記憶の中のみに残り、認知的に操作可能であるため、－の感情を持って後から＋の感情に変えることができるという解釈に至ったが、この傾向の信頼性を確認するためには、さらにサンプル数を増やして調査を行っていくべきである。

別紙 1

ケースⅢ安立
2017年11月15日

表1.お金の主な用途

カテゴリー	小カテゴリー	回 答 例
食 べ 物	生活	・生活費です…食費です(K)
		・今は学食とか(K)
	食べ物	・食べ物です(E)
		・飲食代かな(G)
		・限定スイーツ。飲み会など。不定期だが月に4回くらい。つまり週に1回程度(C)
	人と食べる	・食費というか交際費という感じです。話すついでにご飯も食べている感じ(E)
		・週3・4回くらい友達と(G)・一人では外食しない(G)・ご飯を食べながら話すから両方かな(G)
		・外食です…友達とか人と一緒に行く・食べること+α時間の共有(C)
	場所	・家の中です。買ってきたものを食べます(K)
	部活	・部活(オーケストラ、バイオリン)の演奏会代(年2回・各3万円)、合宿費(年2回・各3万円)(I)
		・あとは部活とか(K)
	旅行	・旅行(交通費)にお金を使う(D)
	・旅行(H)・旅行は誰かと一緒に(H)	
ライブ・アイドル	・好きなアイドルに・ライブ(B)	
	・友達と行く(A)・友達が行けなくてどうしてもときだけ一人で行く。一人で行くと必ず友達に感想を伝える(A)	
本	・お金はいちばん本に使う(J)	
服	・服です(L)	
	・服にお金を使う(D)	
	・お金は化粧品や服に使うことが多い(J)	
	・服です。いや、服っていうか身に着けるものですね。靴とか指輪とかもそうですもんね。(F)	
趣味	・趣味のこと。ハンドメイドが好きなのでその材料費とか(K)	

表2.お金の使用目的

カテゴリー	回 答 例
生活のため	・服は毎日着るものだから、使う頻度が多くあってたくさん使えるから(L)
	・お金は毎日使うものに使う(J)
友達といて楽しいため	・ご飯を食べたいからじゃなくて話したいか(E)
	・友達と共有することが楽しいから(H)
	・楽しい気持ちを共有できるから(B)
人と話して価値観を得るため	・自分の考えと違う人の話のほうがおもしろい(E)
	・自分の中の価値観を増やすことができる(E)
	・知らない人生の話聞くことで映画を見ている感覚になる(E)
幸せのため	・ほしいから。好きだから(F)
	・そのアイドルに会うことが幸せだから(A)
	・貢ぐことが幸せだから(A)
ストレス発散のため	・バイトで貯めたお金をすばっと使えることが楽しい(L)
	・服を買うことがストレス発散だから(L)
	・食費より服を買うほうが出費が大きいからストレス発散できる(L)
自信をつけるため	・自分に自信を持つために買っている。人からの評価が気になる(F)
	・自分にとってそれがないと寂しい(I)

表3.お金を使用する際の気持ち

カテゴリー	小カテゴリー	回 答 例
正	感情	・すっきりする。楽しい(L)
		・コンサートでいい席が当たることを願いながらお金を払う(A)
		・旅行に多くのお金を払っているが、それ以上にサークルの仲間や同期と過ごすことに幸せを見出している(D)
		・旅行に行くことに払っている金額よりも満足感を得ている(D)
		・払っている時はまだ行ってないから楽しみという気持ち(B)
		・お金を払うことによって確実に満足感を得ている(J)
	理由	・旅行に行くためにお金を払うことに必要性を感じている(心の負担は0)(D)
		・自分へのご褒美でもあるから(G)
		・楽しい時間を共有できるからポイントと払っちゃう(G)
	(ポジティブな理由)	・そこに行きたいと思ってら無心でお金を貯めて、そこに行く(H)
		・欲しいものがあつたら絶対買う(F)
	で ど い も ち な ら	無
・何も思わない(G)		
負	正負の負より	・ものにならない旅行は、惜しいとは感じるが、行った後は良かったと思える(H)
	不満	・高いな、という気持ち。あまりよくはない(I)
		・買うときは、うれしい気持ちより高いと感じる(G)
	残念	・払っちゃったな。正というより負という感じ(C)
		・お金に対して負のイメージを持っている(J)
	後悔	・レジで商品を確認されたとき、似ているものが多く、後悔しやすい(J)
・もったいないと思う気持ちがある(G)		
お 金 が な い と き の 対 処 法	借りる	・どうしてもお金がないとき、親に借りる(I)(H)
	我慢	・回数や買うものを減らす(A)
		・経費はできるだけ削る(H)
	代替	・ご飯以外の電話などで時間を作って話す(E)
		・コンビニスイーツなどの小さなことで喜ぶ(C)

表4.お金を使用する際の満足感について

カテゴリー	小カテゴリー	回 答 例
満足している	持てている	・大体満足してます(K)
		・プラスの気持ちです、大体満足している(E)
	物質に対するもの	・服にお金を使うときは、欲しい商品を手に入れることができるので嬉しい気持ち大きい(J)
		・試着をしていることから確実に満足を得て購入している(J)
		・時間という形のないものを(楽しむための服を買って)楽しく過ごせる仲間と共有することでお金を使っている(D)
	感情に対するもの	・人に言われるより自分で満足しているほうが大きい(L) ・知ったことがプラス(E)
満足していない	物質に対するもの	・味が思ったものと違ったとか(K)
		・セトリストが悪い(B)
	感情に対するもの	・自分の話を全然聞いてくれなかった(E) ・怒り、無駄な時間だったなというかんじ(E)
	金銭に対するもの	・このお金ほかのことに回せないかなと思います(K)
対処	無かったことにする	・後悔したことはありません。ショックを受けてすごい後悔のうえ、売ります(L)
	根本的対処	・その人本人に言いました(E)
	代替	・別に引きづらない。切り替えて別のものを買う(F)
		・とりあえず食べて、もうそのお弁当は買わない(K)
認知を変えている	・つまらなくてもそれも旅行の醍醐味だから、言ったことに意味があるから(H) ・持っていないでも自ら持てるようにしている(A)	
使用状況	ひとりでのとき	・ショッピングは一人です(G)
	慎重型	・じっくり選びます(L)
	衝動型	・興味を持っている物は衝動的に購入してしまうことが多い(J)